



2020年2月13日

各 位

会 社 名 乾汽船株式会社
代 表 者 名 代表取締役社長 乾 康之
(コード番号：9308 東証第一部)
問 合 せ 先 コーポレートマネジメント部長
加藤 貴子
(TEL. 03-5548-8613)

2020年3月期通期連結業績予想の修正に関するお知らせ

当社は、最近の業績動向等を踏まえ、2019年12月13日に公表した2020年3月期（2019年4月1日～2020年3月31日）の通期連結業績予想を下記のとおり修正することとしましたので、お知らせいたします。

記

1. 2020年3月期通期連結業績予想値の修正（2019年4月1日～2020年3月31日）

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想(A)	百万円 22,407	百万円 △522	百万円 △709	百万円 522	円 銭 20.95
今回発表予想(B)	22,054	△875	△1,116	127	5.10
増減額(B-A)	△353	△353	△407	△395	—
増減率(%)	△1.6	—	—	△75.7	—
(ご参考)前期実績 (2019年3月期)	23,008	396	△51	639	25.72

2. 修正理由

当社の外航海運事業の業績予想における市況想定は、恣意性を取り除く意味から海運先物市場に連動させております。

第3四半期連結累計期間の外航海運事業におけるスモールハンディ船の市況は、上昇する局面もありましたが、事業環境に大きな影響を与える燃料油環境規制が2020年初より一斉に始まることに備え、海運業界では、操船や市況に混乱来す場面があり、当社もその影響を受けました。これに海運先物市場に連動させた市況前提を加味した結果、第3四半期連結会計期間の実績における売上と費用を両建てする自営航海の比率が想定より高かったことにより、売上高は上記市況下落影響と自営比率上昇影響が相殺となりました。一方で、今後も特に中国向け貨物の航海は、新型コロナウイルスの影響を受けることが避けられないと思慮し、海運先物連動を基本とする当社市況見込みに、特別に市況悪化懸念を含めた収入機会の逸失を見込みました。

その結果、通期連結売上高は前回の業績予想を353百万円下回る22,054百万円（うち外航海運事業の売上高は、前回予想13,243百万円であったところ、今回12,995百万円へ修正）となる見通しです。

費用においては、上記の自営航海比率の上昇の影響で増加したことと、第4四半期に想定していた

入渠が売船による取り止めと新型コロナウイルス対策の緊急避難の影響により当該年度に発生しないこととなり大幅な費用の減少となったことが相殺し、概ね前回想定通りの業績予想となりました。

上記の結果、通期連結営業利益は、前回の業績予想を 395 百万円下回る 127 百万円（うち外航海運事業の営業損益は、前回予想 2,169 百万円の損失であったところ、今回 2,528 百万円の損失へ修正）を予想しております。

なお、倉庫・運送事業、不動産事業は概ね前回想定通りに進捗する見通しです。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

上記の予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は、今後、様々な要因によって予想数値と異なる場合があります。

以上